

秋冬野菜の栽培について

病気の種類

ハクサイは、病気にかかりやすい野菜です。病気の特徴、発生した場合の対策薬剤についてご紹介します。

ハクサイ



軟腐病
葉の根元が腐敗して、独特の悪臭を放ちます。

対策薬剤 ●バリダシン液剤 ●スターナ水和剤



べと病
葉に黄色の病斑が現れ、葉全体に広がります。葉の裏には、灰白色のカビが生えます。

対策薬剤 ●アミスター20フロアブル ●プロポーズ顆粒水和剤



黒斑病
黒斑病は、淡褐色の病斑が現れます。白斑病は、灰白色の病斑が現れます。

対策薬剤 ●アミスター20フロアブル ●プロポーズ顆粒水和剤

※薬剤の在庫、使用方法などにつきましては、各支店の購買店舗で確認をお願いします。

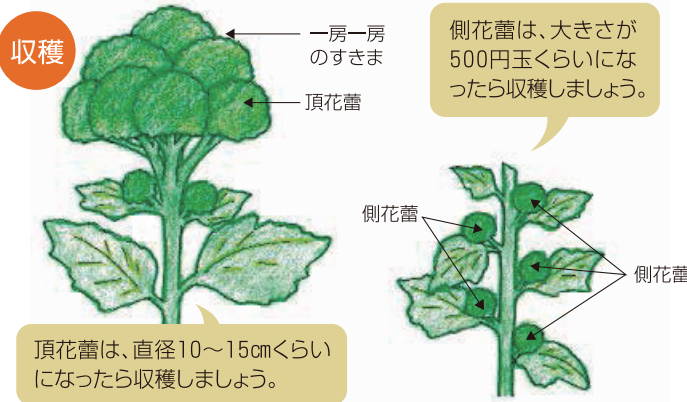
▲いずれも「ひと目で分かる花と野菜の病害虫 大阪府 園芸植物病害虫図鑑」から引用

ブロッコリー

収穫の種類

花蕾が大きくなり、一房ごとの周辺に隙間ができ始めた頃に、一番上の頂花蕾を収穫します。収穫の適期が短いので、収穫が遅れないようにしましょう。

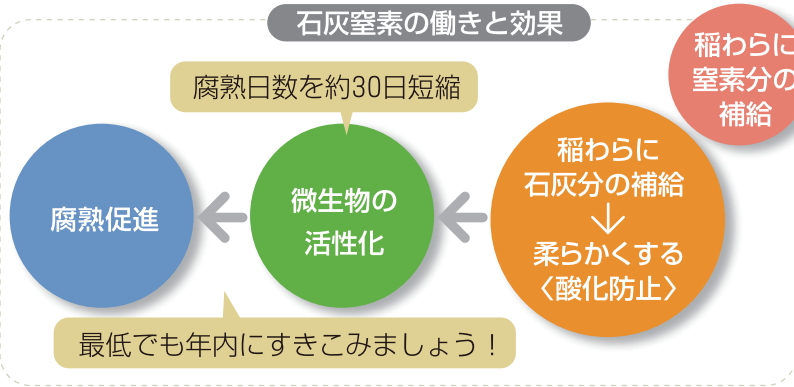
また、頂花蕾を収穫して2週間後くらいから、側花蕾を収穫できる品種もあります。そのような品種は、頂花蕾を収穫後に追肥を行うと、側花蕾の育ちがよくなります。追肥は、燐加安14号を1㎡あたり30g施すのがおすすめです。



うまい米は土づくりから!!

秋の収穫作業を終えたら、早めに土づくりに取り掛かりましょう。稲わらの分解は地温が高いほど促進されます。石灰窒素(20kg/10a)を散布し、すきこむと稲わらの腐熟促進に効果があります。土壌改良資材は老朽化水田の改良、秋落ち田の改善に有効です。また、病気の発生や倒伏が軽減されます。土壌改良資材は水田の土壌状況に応じて、収穫後なるべく早く施用し、稲わらと一緒にすきこみましょう。

石灰窒素の働きと効果



有機物・水稲用 土壌改良資材の散布

含鉄資材

水田では鉄が少なくなるのと硫化水素が発生しやすくなり、根ぐされなどを引き起こし、いわゆる秋落ちを生じることがあります。



ex) エコ鉄ちゃん ミネカルなど

ケイ酸質資材

水田にケイ酸が十分にないと茎や葉が固く丈夫になり、病害虫の被害が少なくなります。



ex) とれ太郎 ケイカルなど

有機資材

有機物の少ない土は地力が低下し、保肥力が弱くなります。有機物が少ないと、圃場の土が硬く締まり、水の生育不良に繋がります。



ex) アツミン もみ殻堆肥 牛糞堆肥など

